

一再び従業員諸君に告ぐ!!

こんどの整理は山を更^イ生^イさんが爲の止むを得ない結果むい^ク騒^イむもんな乱暴をしても新^{ダン}じ^イを更^イすることは出来ません。残った諸君がやめて行く人達に同情することはそれは人情としてあたりまへのことでは會社としても何も好んむ多くの人をやめさせたわけではありません。早く言へば十人の家族では家がやつてゆりな^イから三人^イを^イ他^イへ働きに出すといふリクツにもなるのぢす。それ故残った人達はこれから力を合せてその家を建て行くのねばならぬつまらぬさわざをしたりにしてグラ^イへ^イる^イとはとても家の立直しは出来ません。今後は何でも多数の力を押せばどんな無理でも通らん^イといふ悪い習慣が^イあり^イました。しかしそんな心がけ^イではとてもこの毒^イを打破することは出来ません。今はこの山はま^イま^イるか^イ死ぬ^イかの境目にあるのぢす。この非常時を打開するにはお互々人間の本来の精神に立ち^イ返り^イ暖^イかい^イ情^イ愛^イの^イキツ^イナ^イの下に^イシ^イの^イカリ^イと心を合せて手を握りあ^イって行くより外に道は存^イつ^イて^イす。この精神を眞實に理解される人達と共にこれから山の更^イ主^イの心^イ身^イをブ^イテ^イこん^イむ^イ行^イきた^イつと思ひます。

五月三十一日

持越鑛業所